

130125 ノウサギ

我が国の山野では、昔から「ノウサギ」が暮らしており、唱歌「ふるさと」にも歌われているように、多くの人々に親しまれてきた動物です。

成体の体重は3 kg弱、体長は50 cm程度で、尾の長さは3 cmくらい、唯一の武器は大きな耳でいち早く敵の存在を知り、脱兎の如く逃げ去ることでしょうか。

でも、この「武器」を活かすためには、遠くまで見通せるような広い場所が必要となります。

広大な面積の樹林が伐採されていた時代には、「ノウサギ」の個体数も多かったのですが、現在の山は、過密なスギ・ヒノキ林や、藪(ヤブ)のようになった雑木林が増えてしまいました。

その結果、近くの敵に気づくのが遅れたり、全力で走ることができないために捕らえられてしまう危険性が高まり、最近では彼らの姿を見かけることは珍しくなっていました。

もっとも、個体数が多いときには、植林苗をかじったり、野菜を食べたりするので「害獣」として農林業を営む方々からは嫌われていたのですが…

姿を見ることが少なくなっても、彼らが生息している「痕跡」を見つけることはできます。

「フィールドサイン」とも言うのですが、「糞」もその一つで、山野を歩いていると、直径1 cmほどの饅頭型のノウサギの糞が落ちていたりします。

もっとわかりやすい「フィールドサイン」があります。

それは、雪の上に残された「足跡」です。

昔、スキー場に出かけたとき、リフトに乗っていると雪原にいろいろな動物の足跡を見ることができたのですが、大阪では雪が積もることは少ないので…

でも、1月20日に「ダイヤモンドトレール」を歩いてみると…

金剛山や大和葛城山の山頂付近には、見事な「雪原」が広がっていたのです！

■写真①： 大和葛城山頂付近 (1/20 撮影)

◆まるでスキー場みたいですね。

■写真②： フィールドサイン

◆ノウサギの足跡が！

■写真③： 事故？

◆ノウサギが落命していました…

◆何者かに襲われたのでしょうか？

◆東北地方や日本海側の積雪地帯などに暮らす個体群は、冬季に全身の毛が白く生え変わって、雪原での保護色となるのですが、それ以外の地域では冬季でも褐色（腹部は白）のままですので、雪が積もれば逆に目立ってしまいますね…





